山形市 聴こえくっきり事業

目　的

　山形市が目指す健康医療先進都市の確立に向けて、聴こえのフレイルの予防並びに早期発見・早期対応を行うことにより「聴こえ」の状態を改善し、人とのコミュニケーションや社会活動への参加を促進することで、高齢者の社会的孤立を防ぐとともに、介護予防や認知症予防、ひいては健康寿命の延伸につなげることを目的に総合的な聴こえのフレイル対策を実施する。

1　背景

聴こえのフレイル
（聞き取る機能の衰え）

難聴の有病率は65歳から急激に増加（右図）

○　コミュニケーションや外出の機会の減少
○　知識力、情報処理スピードの低下
○　認知症（※）

（※）Lancet（2017年、2020年改訂）によれば、認知症の医学的介入が可能な危険因子として難聴が８％とされ、他の危険因子と比べて最も影響が大きいとされている。

＜表１：難聴の有病率＞　※25dB（デシベル）以上

年代	男性	女性
60～64	18.8%	10.6%
65～69	43.7%	27.7%
70～74	51.1%	41.8%
75～79	71.4%	67.3%
80～	84.3%	73.3%

出典：国立長寿医療研究センター「老化に関する長期縦断疫学研究」

＜表２：山形市75歳、80歳独自アンケート（令和４年度）＞
※回答者：75歳（3,505人）、80歳（2,076人）

質問	聞き返すことがよくある	数人の会話で聞き取れない	コロナ禍前と比べて、もの忘れが気になる
75歳	26.3%	21.4%	16.3%
80歳	38.1%	31.4%	22.0%

＜個人・社会をとりまく環境の変化＞
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛や孤独・孤立
・地域のつながりの希薄化

2　基本的な考え方

対象：65歳以上の高齢者

普及啓発
正しい知識の普及

早期発見
聴こえチェック
専門医紹介
（言語聴覚士）

早期対応
精密検査
補聴器使用
（補聴器相談医
認定補聴器技能者）

QOLの向上
・社会参加
（体操、趣味、地域行事など）

健康寿命の延伸

健康医療先進都市

3　事業の概要

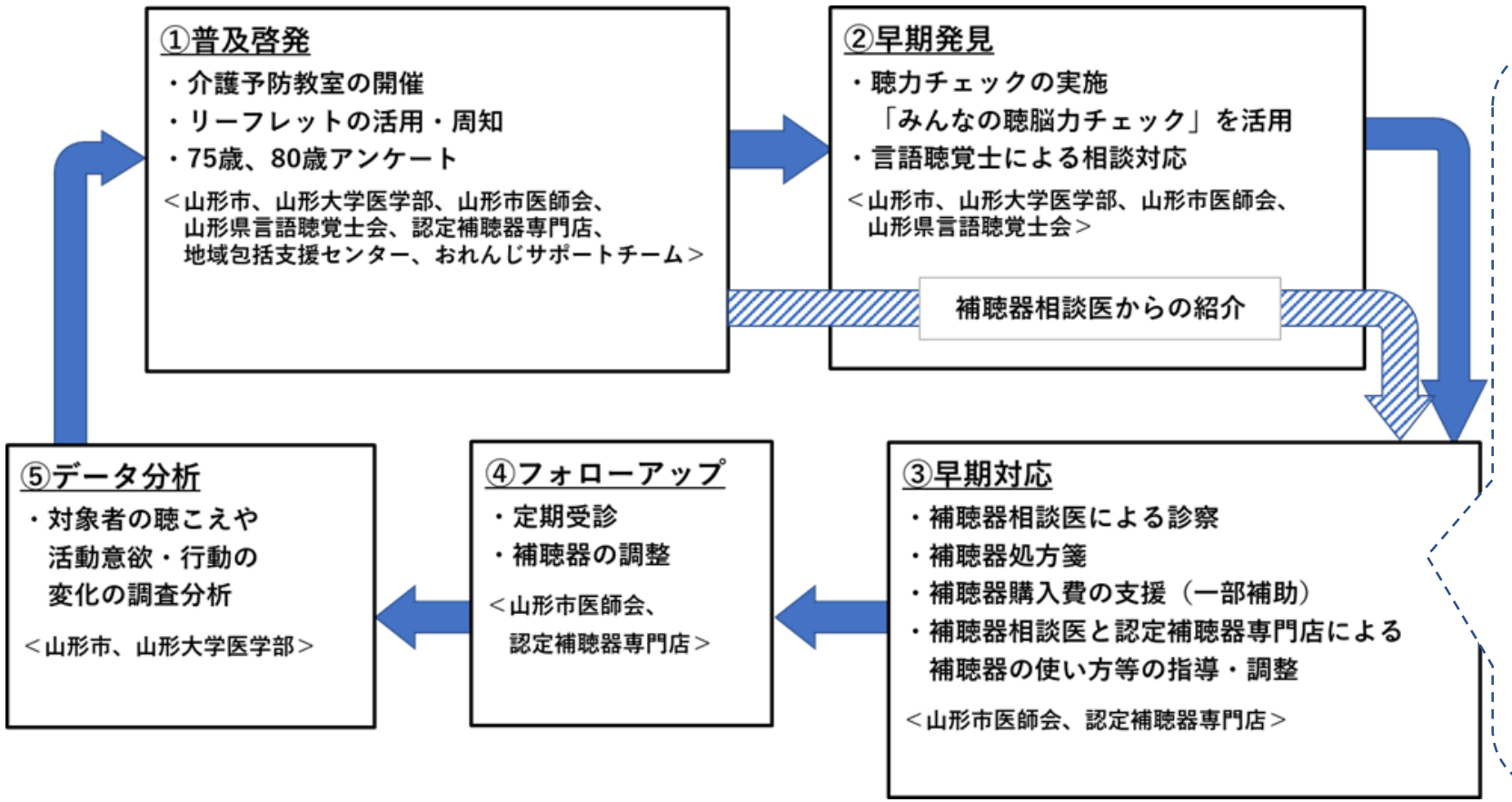
ポイント１　～医・産・学・官の協働～

本事業では、医・産・学・官が連携・協働し、事業を検討しながら効果的な実施に向け取り組んでいる。



ポイント２　～難聴対策のパッケージ（好循環による事業の改善）～

本事業では、補聴器購入費への補助だけではなく、
①普及啓発、②早期発見、③早期対応、④フォローアップ、⑤データ分析
の５つの要素をパッケージ化。



●補聴器購入費の支援（一部補助）

【主な要件】
①本人住民税非課税
②補聴器相談医の診断で補聴器が必要と認められた
③認定補聴器専門店で補聴器を購入
④これまで補助金交付を受けていない
⑤初めて補聴器を購入（買い替えは対象外）
【補助額】
・上限４万円（購入費の２分の１）

①普及啓発

聴こえのフレイルが心身の機能に与える影響やその対策について、市民の理解を深める。

②早期発見

聴こえのフレイル状態にある方の早期発見を行う。

③早期対応

聴力の低下により耳鼻咽喉科への受診が必要と考えられる方を早期の受診につなげ、必要な検査や補聴器の使用等を通じて、聴力の機能維持を図る。

④フォローアップ

補聴器装用者について、補聴器相談医への受診や認定補聴器専門店での通常のアフターケアを通じて、定期的に聴力や耳の状態、補聴器装用の状況を確認し、必要な助言を行うことで、継続的かつ効果的な補聴器利用につなげる。

⑤データ分析

①から④までの取組を通じて、対象者・参加者の聴こえや活動意欲・行動等に生じた変化を把握し、分析することにより、更に効果的な事業実施につなげる。

4　実績

YAMAGATA CITY 山形市

①普及啓発

【介護予防教室「耳からの健康講座」年度別推移】（回数・参加者数）　（令和８年７月末時点）

年度 / 項目名	R４	R５	R６	R７	R８	合計
全市対象（中央会場）	1回 44人	1回 55人	1回 35人	1回 50人	1回 40人	5回 224人
地区対象（地区コミセン等会場）		1回 31人	1回 37人	7回※ 239人	3回※ 100人	12回 407人

※地域包括支援センター主催事業として実施

啓発リーフレット及びイメージキャラクター・キャッチコピーの作成
（東北芸術工科大学への業務委託）

キャッチコピー

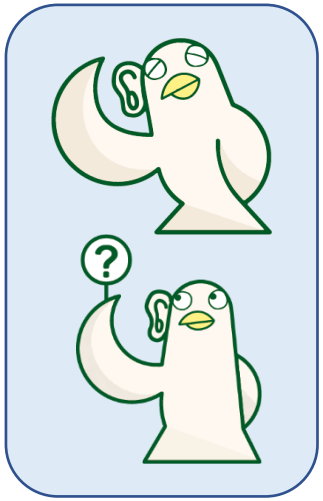
耳で意識、
やまがたの四季。



イメージキャラクター「はてピー」

耳が遠くなってしまったことを否定的に捉えないようなかわいらしさがあることを一番意識し、どこかクスッとできるキャラクター像として、東北芸術工科大学の学生により制作された。

耳で意識、やまがたの四季。
山形市 聴こえくっきり事業



②早期発見　③早期対応

【アプリを使ったチェック　年度別推移】

（令和８年７月末時点まで実績まとめ）

項目名＼年度	Ｒ４	Ｒ５	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ８	合計
チェック実施者数	85人（2回）	163人（6回）	159人（7回）	160人（8回）	30人（2回/9回）	597人（25回）
語音聴取率60%未満	35人	50人	36人	24人	2人	147人（24.6%）
受診者数	32人	41人	29人	18人	0人	120人（81.6%）
補聴器処方あり	15人	32人	21人	5人	0人	73人（60.8%）
補聴器購入費助成者数	6人	15人	4人	1人	0人	26人

※チェックはＲ４：２会場、Ｒ５：６会場、Ｒ６：７会場、Ｒ７：８会場で実施。
　Ｒ８は９会場で実施予定。Ｒ６から一部地域包括支援センター事業として実施。

受付 → 語音聴力チェック → 言語聴覚士による相談、受診勧奨







アプリ
「みんなの聴脳力®チェック」



出典：㈱聴脳科学総合研究所

【参加者の声】

どの程度聴こえているか数値化され、自分の聴こえの状態を知ることができてよかった。

思ったより聴こえなくてショックだったが、早いうちに知れてよかった。

聴こえに関することは相談する機会がなく、誰にも言えなかった。

ぜひ補聴器相談医を受診してみようと思う。

＜言語聴覚士の声＞
・「補聴器をつけるとすぐに聞こえるようになるわけではない」など、正しい情報を伝えることは大事だと実感した。
・相談されたほとんどの方に耳鳴りの症状があり、今回のチェックをきっかけに耳鼻科受診を勧めることができた。

5　令和８年度取組内容

①普及啓発

聴こえのフレイルが心身の機能に与える影響やその対策について、市民の理解を深める。

1　介護予防教室「耳からの健康講座」

⑴市主催：１回

⑵地域包括支援センター主催：８回（地域での聴こえのチェックを実施する前に開催）

【内容】・聴覚の仕組み、難聴の原因・対応
・聴こえのフレイルが心身の機能に与える影響（社会参加の減少、認知症の危険因子等）
・専門医への受診による早期発見の重要性
・聴こえにくい方とのコミュニケーション、補聴器の基礎知識等（※）

【講師】補聴器相談医・言語聴覚士（※）・認定補聴器技能者（※）

※は⑴市全域対象のみ

2　啓発リーフレットの活用による周知

令和５年度に作成した聴こえのフレイルに関する啓発リーフレットを活用し、子どもから大人まであらゆる世代から手に取ってもらえる場所や医療機関、公民館等へ設置していく。

3　75歳・80歳アンケート

毎年度実施している75歳・80歳を対象とした心身機能に関するアンケート調査に、令和４年度から「耳の聴こえ」に関する設問を追加し活用。

②早期発見

聴こえのフレイルの状態にある方の早期発見を行う。

1　アプリを使ったチェック

【内容】　・アプリ「みんなの聴脳力®チェック」を活用した語音聴力チェックの実施
・一定の基準（語音聴取率60%未満）に該当した方に対する補聴器相談医の紹介
・言語聴覚士による受診勧奨及び個別相談の実施
・地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの協力を得ながら実施

【対象】　６５歳以上の市民で、これまで市の実施するチェックに参加したことのない方及び補聴器を装用していない方

【回数】　⑴市主催：１回　　⑵地域包括支援センター主催：８回

【場所】　市内公民館、地区コミュニティセンター等

2　補聴器相談医への受診（令和８年７月末時点）

【内容】　自ら聴こえにくさや聴こえの大切さに気づき、補聴器相談医を受診

【場所】　市内の補聴器相談医のいる医療機関（10クリニック、3病院）
※日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　山形県地方部会作成　山形県補聴器相談医医療機関リストより

【R6実績】参加者数：143人、補聴器処方あり：130人（90.9%）、身体障がい者手帳申請：3人、補聴器購入費助成者数：84人

【R7実績】参加者数：149人、補聴器処方あり：143人（96.0%）、補聴器購入費助成者数：90人

【R8実績】参加者数：73人、補聴器処方あり：62人（84.9%）、補聴器購入費助成者数：15人
（令和８年７月末時点）

③早期対応

聴力の低下により耳鼻咽喉科への受診が必要と考えられる方を早期の受診につなげ、必要な検査や補聴器の使用等を通じて、聴力の機能維持を図る。

【対象】 **⑴チェックを受けた方で、補聴器相談医（耳鼻咽喉科）への受診が必要と認められた方**
⑵補聴器相談医からの紹介により、事業への参加同意が得られた方

【内容】 **⑴・⑵共通**

・必要な検査、補聴器の処方箋（診療情報提供書）交付、フィッティング、使い方の指導
→補聴器の使用に当たっては、補聴器相談医と認定補聴器専門店（※）が連携しながら、個々の状況にあった丁寧なフィッティング等を行う。
（※）山形市内に３社、４店舗あり（テクノエイド協会認定）

・補聴器購入費の一部補助（上限４万円・購入費の２分の１）
主な要件：①本人住民税非課税
②補聴器相談医の診断で補聴器が必要と認められた
③認定補聴器専門店で補聴器を購入
④これまで補助金交付を受けていない
⑤初めて補聴器を購入する（買い替えは対象外）

⑴のみ

・チェックから３か月を目途に1回目の受診勧奨。
・未受診者を対象に更に3か月後（チェックから6か月後）をめどに再勧奨を行う。

④フォローアップ

補聴器装用者について、補聴器相談医への受診や認定補聴器専門店での通常のアフターケアを通じて、定期的に聴力や耳の状態、補聴器装用の状況を確認し、必要な助言を行うことで、継続的かつ効果的な補聴器利用につなげる。

【対象】 補聴器相談医への受診の結果、補聴器を使用することとなった方（助成の有無によらない）

【内容】 ・認定補聴器専門店による補聴器の使用状況の確認、調整、相談、定期受診勧奨

・補聴器相談医による聴こえの状況の確認、評価（補聴器適合検査）

※補聴器相談医と認定補聴器専門店との連携による通常のアフターケアを活用したフォローアップの仕組みを継続。

【時期】 補聴器相談医による補聴器の処方日から6か月後目途

※一定の目安として設定するが、この時期以外にも、装用者からの申出や補聴器相談医の指示により、必要に応じて随時フォローアップを行う。

⑤データ分析

①から④までの取組を通じて、対象者・参加者の聴こえや活動意欲・行動等に生じた変化を把握し、分析することにより、更に効果的な事業実施につなげる。